

# 都市再生整備計画(第1回変更)

し ず み え き し ゅ う へ ん  
志都美駅周辺地区

奈良県 か し ば し  
香芝市

平成21年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	奈良県	市町村名	かしはし 香芝市	地区名	しづみえましゅうへん 志都美駅周辺地区	面積	114 ha
計画期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度
交付期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度

### 目標

大目標: 機能的かつ安心・安全なまちづくりの推進と交流活動の活性化

- 目標1 便利で美しくにぎわいのあるまちづくり
- 目標2 安全で安心な暮らしができるまちづくり
- 目標3 地域交流のあるまちづくり

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

本市は、金剛生駒国立公園を挟んで大阪府に接し、大阪と三重県とを結ぶ国道165号線並びに大阪と和歌山県を結ぶ国道168号線、更には大阪都心部と名古屋を結ぶ西名阪自動車道、又JR和歌山線・近鉄大阪線・近鉄南大阪線の鉄道が縦横に走り8つの駅を有する交通至便な所であり、いずれの交通機関を利用しても大阪都心部へは20分～40分という地理的好条件に恵まれた所である。このように地理的条件に恵まれているため、昭和40年代半ばから大型の民間開発並びに区画整理事業が盛んに行われ、県下でも屈指の人口急増都市として大きく変貌し、昭和63年には人口5万人を突破し平成3年10月には市施行を行い、現在では人口が7万人を超えている。

本地区は、香芝市の北部地域に位置し古くから形成された市街地と小規模開発による住宅地が混在し、未利用の農地が点在している。

公共交通機関としてJR和歌山線の志都美駅があり、地区北側には西名阪自動車道の香芝インターチェンジがある。また、鉄道と並行して西側には国道168号線が通り、東側には県道上中下田線が通っている。

歴史的資源としては、志都美神社や武烈天皇陵及び太子道(聖徳太子の亡骸を大阪府太子町の御陵まで運んだとされる葬送の道)がある。

本地区の玄関口である志都美駅の駅勢圏としては、西側は土地区画整理事業により整備された旭ヶ丘地区、東側は隣接する上牧町の住宅地まで含み、平成14年の駅勢圏人口は約3万5千人であり、現在も地区西側周辺では住宅開発が行われ人口が増加している。

このように、本地区は香芝市北部における交通拠点としての重要な位置を占めている。しかしながら、その中核となる志都美駅は、西側からのアクセス道路、駅前広場が未整備のため、現在、駅利用者は南北2箇所の踏切を横断して駅東側に迂回し、唯一、駅へのアクセス道路としては、県道上中下田線のみである。

また、鉄道によって地域が分断されているため、市民から駅利便性の向上、安全性の確保、駅東西間の交流機能の向上などが求められている。

これらの課題を解決するため、志都美駅周辺においては、交通環境の改善、土地利用及び地域交流の促進を目的として、駅西側において国道からのアクセス道と駅前広場の整備、土地区画整理事業による土地利用の促進、駅東西間を結ぶ歩行者専用道路の整備が計画されている。

#### 課題

- ・鉄道利用の利便性の向上及び鉄道駅を活かした土地利用を促進するため、東西間の交通機能の強化を含め面的な整備を推進することが課題である
- ・市民活動の促進や生活環境の向上を図るため、地域の安全性及び防災機能の向上を図ることが課題である
- ・本地区住民は大阪への通勤者が多くコミュニティが希薄となっており、地域住民の交流の促進が課題である

#### 将来ビジョン(中長期)

・総合計画においては、JR志都美駅西地区の整備をはじめとする志都美駅を拠点とした周辺地区整備が位置づけられている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
志都美駅乗車人数	人/日	1日あたりの乗車人数(JR西日本調べ)	目標1に対応し、駅及び駅周辺の利便性向上により駅利用者の増加をめざす。	1,741	平成15年度	2,900	平成22年度
地区内商業・業務施設数	件	地区内の近隣商業地区における商業店舗数	目標1に対応し、駅周辺整備により近隣商業地区の土地利用の促進を図る。	3	平成17年度	6	平成22年度
災害時に供給できる飲料水量	m3	災害断水時に3日間確保できる飲料水量	目標2に対応し、周辺地区を含めて、1万人分の災害時飲料水の確保を目指す。	24	平成17年度	74	平成22年度
朝市の来場者数	人	1日あたりの朝市来場者数	目標3に対応し、朝市をおこなうことにより、地域交流の向上を目指す。	0	平成17年度	30	平成22年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針1(便利で美しくにぎわいのあるまちづくり)</li> <li>・土地利用促進のため、市施行による土地区画整理事業を行う</li> <li>・鉄道駅利用の利便性向上のため、アクセス道路及び駅前広場を整備する</li> <li>・東西市街地双方から駅利用の利便性を確保するため、自由通路の整備に併せて駅舎の橋上化を図る</li> <li>・駅東側の駅利用者の利便性、安全性を確保するため駅東側の整備を行う</li> <li>・駅前の放置自転車を解消するため自転車駐車を整備する</li> <li>・美しくにぎわいのあるまちづくりのため公園の整備を行う</li> <li>・駅前広場として市民の利用ニーズに応えられるよう、また便利で美しいまちづくりのため公衆トイレを設置する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業(関連事業)</li> <li>街路(関連事業)</li> <li>駅舎橋上化事業(提案事業、鉄道事業者)</li> <li>道路(基幹事業)</li> <li>地域生活基盤施設(自転車駐車場)(基幹事業)</li> <li>公園(基幹事業)</li> <li>高質空間形成施設(公衆トイレ)(基幹事業)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針2(安全で安心な暮らしができるまちづくり)</li> <li>・市民や来訪者にわかりやすいまちづくりを進めるため公共サインを設置する</li> <li>・集落地及び周辺の交通安全性の向上を図るため狭隘な交差点などにおいて交通安全施設などを設置する</li> <li>・災害時における市民生活の安全性を確保するため飲料水及び防火用水を確保する施設を整備する</li> <li>・災害時における避難時の公共スペースを確保するため公園の整備を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活基盤施設(情報板)(基幹事業)</li> <li>高質空間形成施設(歩行者支援施設)(基幹事業)</li> <li>地域生活基盤施設(地域防災施設)(基幹事業)</li> <li>公園(基幹事業)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備方針3(地域交流のあるまちづくり)</li> <li>・地域交流促進のため、西側駅前広場に公共バスの停留所を設置する</li> <li>・農業者と市民等の交流を深めるため農家による直売を促進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活基盤施設(情報板)(基幹事業)</li> <li>まちづくり活動推進事業(朝市の開催)(提案事業、農業者団体)</li> </ul>

## その他

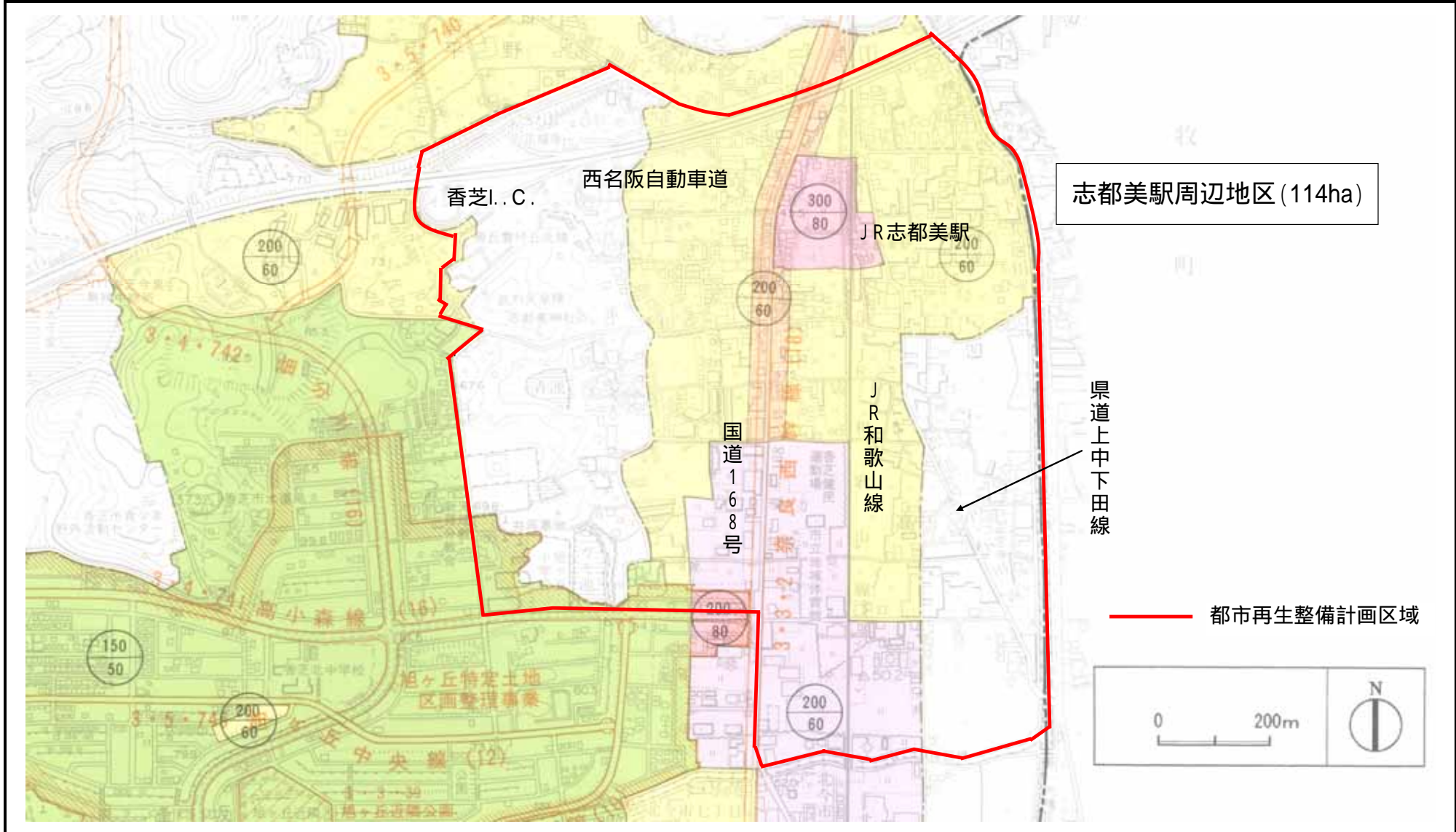
事業終了後の継続的なまちづくり活動  
 事業終了後、利便性や安全性などの向上が図られるものと期待されるが、さらに相乗効果が発揮されるよう、交通安全等地域の安全に関わる住民組織に対して適切な情報提供などの支援や地域安全に係るイベントなどの開催を行っていく。あわせて、志都美駅や公共施設、社寺などを結ぶコースの設定などにより、散策やジョギング、犬の散歩などが行いやすい環境づくりを進めていく。  
 また、通学路の交通安全と連携し、子どもの安全確保のための活動などの支援を進め、防犯面での安全性の向上にも努める。

### 住民等に対する継続的な広報

本計画に基づき整備する施設が有効に活用されるよう、個々の施設整備にあわせた広報紙への掲載や、公共施設・観光などの情報マップへの掲載を行うとともに、JRとの連携により効果的な情報の提供に努め、住民の諸活動の活性化を図る。

都市再生整備計画の区域

志都美駅周辺地区(奈良県香芝市)	面積	114 ha	区域	奈良県香芝市上中、高、今泉、平野の各一部
------------------	----	--------	----	----------------------



しずみえきしゅうへん かしばし  
志都美駅周辺地区(奈良県香芝市) 整備方針概要図

目標	機能的かつ安心・安全なまちづくりの推進と市民等の交流活動の活性化	代表的な指標	志都美駅乗車人員 (人/日)	1,741 (平成15年度)	2,900 (平成22年度)
			災害時に供給できる飲料水量 (m <sup>3</sup> )	24 (平成17年度)	74 (平成22年度)
			朝市の来場者数 (人/日)	0 (平成17年度)	30 (平成22年度)

